Group 6 平野　充

探究領域と文脈を意識した授業実践

これまでの授業を振り返り、国際バカロレアのディプロマプログラムの音楽の授業では、学習内容を指定するのではなく、生徒と教師が主体的に取り組み、音楽の形式、ジャンル、作品に対してそれぞれ独自のアプローチをとれるような工夫が必要である。この多様な音楽的素材の探究に焦点をもたらすのが、４つの探究領域と３つの文脈である。

４つの探究領域

1. 社会文化的また政治的表現のための音楽（国歌・典礼音楽・プロテスト音楽など）
2. 聴くため、演奏するための音楽（クラシック・クールジャズなど）
3. 劇的なインパクトのための音楽、動きを伴う音楽、エンターテイメント用音楽（バレエ・ミュージカル・映画・オペラなど）
4. 電子・デジタル時代の音楽テクノロジー（エレクトロダンスミュージック・電子音楽など）

３つの文脈

1. 個人的な文脈（なじみのある音楽）
2. 地域社会の文脈（周囲の文化やコミュニティーの音楽）
3. グローバルな文脈（これまでなじみのなかった音楽）

これら３つの文脈を使うことで、生徒は身近な音楽から踏み出て、地域や国などの地域社会の音楽、そして、これまでなじみのなかった音楽とも関わることができるようになる。これらの文脈と４つの探究領域を組み合わせた結果、「マトリックス」のようなものがもたらされ、生徒はそれを基礎として、さまざまな音楽と巡り合う道筋をたどることができるようになり、作曲や編曲、そして実技課題に役立たたせることができる。この文脈を意識した授業実践は他科目においても実現可能である。